

論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Association between preterm birth and maternal allergy considering IgE level

和文タイトル:

血清総 IgE 値の違いによる母親のアレルギー疾患と早産の関連

ユニットセンター(UC)等名: 甲信ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名: 山梨大学

発表雑誌名: Pediatric International

年: 2021 DOI: 10.1111/ped.14635

筆頭著者名: 小島 令嗣

所属 UC 名: 甲信ユニットセンター

目的:

本研究の目的は、母親の血清総 IgE 値の違いが、母親のアレルギー疾患と早産の関連に影響するかを明らかにすることである。

方法:

本研究では、エコチル調査に参加した妊婦 81,791 人を解析対象とし、母親のアレルギー疾患の既往(気管支喘息、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎)と早産・切迫流産・切迫早産との関連について、母親の血清総 IgE 値ごとに多変量ロジスティック解析を行った。本研究では妊娠 22 週から 33 週の早産を早期早産、34 週から 36 週の早産を後期早産と定義して層別に解析した。

結果:

母親のアレルギー疾患の既往と早産の有意な関連はみられなかった。しかし、母親の血清総 IgE 値で 2 つのグループに分けた解析では、母親の血清総 IgE 値が高いグループでは、アレルギー性鼻炎の既往と早期早産のリスクの低下に関連があることが明らかとなった。

考察(研究の限界を含める):

母親の血清総 IgE 値の違いによって、母親のアレルギー性鼻炎の既往と早期早産の関連が異なることが明らかになった。本研究では、母親のアレルギー疾患については、アレルギー疾患の既往として自己記入式の質問票で確認しており、必ずしも現在のアレルギー疾患の状況や重症度を反映しているとは限らないこと等が研究の限界である。今後は妊娠時のアレルギー疾患の重症度を含めた研究等が望まれる。

結論:

母親の血清総 IgE 値の違いによって、母親のアレルギー性鼻炎の既往と早期早産の関連が異なることが明らかになった。アレルギー性鼻炎の既往があり、血清総 IgE 値が高いグループでは、早期早産のリスクの低下と関連があることが明らかになった。